

山陰縣志

平

十

一、
上列各例之
各例

之の司也

一、此字係「中」字之誤，「中」字之誤，「中」字之誤。

卷之五

金華先生

五言古詩

愛の言葉

平
卷之七

若くは長く候

もき

村の南に

もきおのけにさうしたを境とす。も
きおのけは、内陸にあり、その
西の古坂に、一子に、後援は、
もきおのけに、さうしたを境とす。
もきおのけは、内陸にあり、その
西の古坂に、一子に、後援は、
もきおのけに、さうしたを境とす。
もきおのけは、内陸にあり、その
西の古坂に、一子に、後援は、
もきおのけに、さうしたを境とす。

合せて、さうしたを境とす。
もきおのけは、内陸にあり、その
西の古坂に、一子に、後援は、
もきおのけに、さうしたを境とす。
もきおのけは、内陸にあり、その
西の古坂に、一子に、後援は、
もきおのけに、さうしたを境とす。

もきおのけ

村の南に

もきおのけに、さうしたを境とす。
もきおのけは、内陸にあり、その
西の古坂に、一子に、後援は、
もきおのけに、さうしたを境とす。
もきおのけは、内陸にあり、その
西の古坂に、一子に、後援は、
もきおのけに、さうしたを境とす。

● 高きうへきとてふは、
橋本作

古くも、
に

こゝろ
所因

● 所を、
に

おのれ、
に

● 高きうへきとてふは、
に

世に、
に

素系、
中村

高きうへきとてふは、
に

[illegible]

音

$$\frac{11}{10}$$
[illegible]

[illegible]

乙巳

4510

月信

今初集

此乃新法也

一
漢

明子石牛竹石林外即主端正集

天啓元年

一
印
目
之
人
清

一、市井俗言
俗語云：『人有三寶，氣、財、色。』

五言古詩

此可也

来々有田寺に於て此の古の法を承
傳ふは此の如し

三子子子子

紅

今更に其の意を明かにして
其の意を明かにして

[illegible]

武多つちをたふしむる
要は宿校にせしむる
と又多田にせしむる
とてたふしむる

三十一

玉子豆腐

品類

子孫萬世

仁孝名公著述

星のなみだをふくみよ

長江集

杜南師

中 爲 之 任 重 矣 故 曰 中 爲 之 任 重 矣

之知不足而勉之在己者多矣

長安府志

天竺寺の修徳院

10 丁酉年十一月廿三日

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style.

三月

日

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or letter. The text is written in a fluid, connected style.

[illegible]

形を以て作るは、
造りしを以て作る
と云ふ事、此の如く
造りしを以て作る
と云ふ事は、
造りしを以て作る

平

山田孝

戸部のものか

多子九子孫

一、李、白、子、也、之、子、也、之、子、也、

[illegible]

三

[illegible]

三

七

十

一 何處有之則彼亦中
 一 此亦中七之印也再中驗教去身內
 一 能生何能往村之也此教教教行
 一 書教何中用此付
 一 此教何中付中教教教教教教
 一 角教何中付中教教教教教教

河川移りては名も河川地ありて
是れ河川地なりと云ふ

河川

河川

河川

河川

河川

河川

河川

河川移りては名も河川地ありて
是れ河川地なりと云ふ

河川移りては名も河川地ありて
是れ河川地なりと云ふ

河川

河川

河川

河川移りては名も河川地ありて
是れ河川地なりと云ふ

河川

河川

